菱山小学校

「主体的に学習する児童の育成」

～ 活用する力をはぐくむ授業づくりを通して～

I　研究の内容

1　主題設定の理由

本年度は，新学習指導要領の完全実施に伴い，基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動，またこれらの活用を図る各教科指導及び総合的な学習の時間を中心とした探求活動といった学習の流れを重視し，基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図ることとした。

また，研究を推進するにあたり，児童の実態をより把握し，不足している力や指導が必要な力を明らかにしていく必要がある。また，それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の改善，思考力・判断力・表現力の育成を目指し，「活用する力」をテーマに，共通理解のもとでとりくみを焦点化させていくことが重要であろう。「確かな学力」の育成を目指し，基礎基本の習得と，それらを活用する力をいかにはぐくむかを研究実践していくことが求められる。

また，地域・保護者の願いをふまえ、学校教育目標に掲げた子ども像の具現化に向け様々な活動を通して子どもたちに多くの経験を積ませる中で、主題に迫りたい。

2　研究の具体的な内容と方法

（１）算数科の授業において，基礎・基本の知識・技能を習得させ，活用力を育てるために，学習過程を工夫し改善する。

（２）算数科における「活用する力」についての理論研究を行い，共通理解のもとで具体的指導法を探る。

（３）児童の実態を把握し，課題を明確にする。（ＣＲＴ検査の実施）

3　研究実践

（１）研究授業

ア　第３学年　算数科「計算のしかたをくふうしよう」授業者　前島国学教諭
　　指導・助言　義務教育課　谷澤　浩明　主幹指導主事

イ　第５学年　算数科「単位量あたりの大きさ」　授業者　廣瀬敦子教諭
　　指導・助言　峡東教育事務所　萩原　徹主幹指導主事

（２）授業実践（一人一実践）

第１学年　算数科「ずをつかってかんがえよう」　授業者　岡ひさ江教諭
第２学年　算数科「九九をつろう」　授業者　駒田　覚教諭

第４学年　算数科「小のかけ算とわり算を考えよう」授業者　髙添　勉教諭
第５学年　音楽科「アクセントを工夫してリズムパターンを作ろう」
授業者　近藤英夫校長
第６学年　算数科「比例をくわしく調べよう」　授業者　野尻あや子教諭
全学年　保健集会「汗と清潔」　授業者髙見澤　千恵養護教諭

（３）新指導要領についての学習会
・「特別支援教育」について
講師　新しい学校づくり推進室　岡　輝彦特別支援教育担当主査・指導主事

Ⅱ　研究主題について

１　成果

・前年度からの研究成果を継承して、研究を進めることができた。活用する力をはぐくむ授業づくりには、児童の実態把握から、日常生活に生かす発展性まで幅広く、いろいろな面からのとりくみができた。
・主体的に学習する児童の育成を目指しているために、授業の様々な場面で、思考力や判断力・表現力を引き出すための工夫や授業改善が進められたと思う。子どもたちもそういう授業展開に慣れてきた。つまり、自ら問題解決をしようとする意欲が感じられた。
・算数科でその学年で獲得すべき基本的な内容を確実に身につけさせること，どのことを生かせばよいか判断し，自分の考えを表現する形で授業を進められた。
・理論研究と授業研究での検証が結びついて，学ぶところが多かった。講師による指導で，明らかになったことが多く大変充実していた。
・課題提示，自己解決に向けての見通し，教師の発問，課題解決のための話し合い，学習のまとめ，学習環境，生活に根ざした教材等，指導過程の改善について研究ができた。授業研究の検証としての講師からの助言が大変勉強になった。

２　課題

・今年度の研究の中で重要な要素となっていたのは、「言葉、数、式、図を用いて考え、説明する活動」だった。中でもテープ図、線分図、数直線を用いて問題解決にとりくみ，考えを発表する活動については、さらに学年の系統性を考慮した指導方法について研究を進めていくの重要性がある。
・課題提示や教材，生活への活用，生きた教材について深めていきたい。

Ⅲ　成果物

１　第３学年「計算のしかたをくふうしよう」学習指導案及び資料
２　第５学年「単位量あたりの大きさ」学習指導案及び資料
３　授業実践指導案６点及び勝沼ブロック交流公開授業指導案６点

（研究主任　髙添　勉）